

2018 年度 中東研究

第 1 回研究会

日時： 2018 年 10 月 26 日 15：00～17：00

開催場所： 武蔵野大学 1 号館

発表タイトル： 「トルコの大統領・議会選挙の分析：エルドアン大統領の権力は絶対的なものとなったのか」

発表者： 今井宏平 アジア経済研究所・JETRO 中東研究グループ 研究員

出席者： 山内 昌之、布施 哲史、中川 恵、小松 久男、高岡 豊、田村 亮平、  
保坂 修司、吉川 恵章、若林 啓史

発表要旨：

2018 年 6 月 24 日に実施されたトルコの大統領選挙と議会選挙の意義、争点、選挙戦の動向と結果について詳細な分析と解説がなされた。ダブル選挙に至るまでのトルコの情勢として、通常は民主主義体制下においては議員内閣制・大統領制のいずれも強力な権力を有する執政者を輩出しないことに主眼が置かれているのに対し、トルコの大統領制では 2017 年の憲法改正による大統領権限が強化された点、さらに「親イスラム」政党から「中道右派」およびトルコ人重視の姿勢を強めた公正発展党と民族主義行動党の、いわばナショナリスト同盟が結ばれた点などが指摘された。またダブル選挙の結果、エルドアン大統領が再選し、トルコ共和国史上最強の権限を持つ大統領が誕生した反面、議会では公正発展党が単独与党の座から滑り落ち、2017 年に結成されたばかりの優良党が、世俗的な反エルドアン・公正発展党の中道右派の空白を埋める形でまずまずの得票率を獲得した点などについて、詳細な分析がなされた。